

## 早稲田大学 教育学部 古文 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	国語 90 分（現代文 2 問、古漢融合 1 問）
出典	『狭衣物語』
解題	平安時代後期の物語。従妹の源氏宮へのかなわぬ恋に苦しむ狭衣大将の女性遍歴をつづる。『源氏物語』の影響を受けたとされる。

### 〔大問別講評〕

大問番号	設問番号	コメント	難易度
(三)	問二十一	反実仮想「ましかば～まし」	易
	問二十二	「音」に「評判・うわさ」といった意味があることは基本。	易
	問二十三	どのような「音」か、と問われていることより、本文中の「～な音」という部分に注意して読み進めればよい。	易～標準
	問二十四	主語の問題は傍線部の敬語に注意。4「せたまは」、5 傍線部には敬語は無く、その前後に「はべり」「候は」と丁寧語がある。	標準
	問二十五	傍線部 6 の二行前の「あながち～かたじけなさ～わびし」と直前文「皇太后～いとどむつかしき」に書かれている。	標準
	問二十六	設問中の「具体的な感覚」がヒント。	標準
	問二十七	「御笛の同じ～空に聞こえて」。	標準
	問二十八	和歌「稻妻の光に行かむ」より。	標準～やや難
	問二十九	「九重」が宮中の意であることは基本。	易～標準

### 〔総合コメント〕

難易度	標準～やや難
形式・分量	例年と大きな変化はなし。
対策	本文の解釈はやや難しく感じた受験生も多いであろう。だが、それに比して設問は解答しやすくなっている。問二十五・二十七・二十八の内容把握も文中に書かれていることを選べばよく、紛らわしい選択肢もない。単語力・文法力を確実に向上させることはいうまでもない。さらに敬語の学習の重要性を言いたい。問二十四だけではなく、本文全体の読解にも主語の把握は必要であり、そのための手段が敬語だからである。

